

一斉学習と自由進度学習の統合による個別最適な学びの実現 —公立小学校4年生算数科における授業実践と効果—

木 嶋 優 水 (兵庫教育大学大学院)

岩 見 理 華 (兵庫教育大学)

The Integration of Whole-Class Instruction and Self-Paced Learning for
Achieving Individualized Optimal Learning:
Lesson Practices and Outcomes in a 4th Grade Public Elementary School Mathematics Class

KIJIMA YUSUI, IWAMI RIKA

(Graduate School of Hyogo University of Teacher Education)

(Hyogo University of Teacher Education)

要 旨

本論文は、公立小学校における一斉学習と自由進度学習を統合した授業実践を報告するものである。4年生算数科「垂直・平行と四角形」の単元を対象に、自由進度学習の導入プロセスおよびその成果を検討した。特に、発展的課題である「わくわく」活動において、児童の主体的な学びを促進する効果が確認された。また、今後の課題として、複数教科にまたがる学びの効果や、定量的データの収集による精緻な分析の必要性が示唆された。

1. はじめに

近年、個々の学習者に最適化された教育が求められるようになってきている。これは、学習者一人ひとりの能力、興味、学習スタイルに応じて教育内容を調整することで、より効果的な学習成果を得るためである。その中で、指導の個別化と学習の個性化（文部科学省、2021）は重要なアプローチとされ、多くの教育現場での導入が奨励されている。一方、現場では「単なる自習に過ぎない」「既存のプリント学習と何が違うのか」といった批判や、「教員の授業準備の負担が増えるのではないか」といった働き方改革に伴う懸念、さらに教科の深い理解や評価方法に対する疑問がしばしば指摘されている。

本実践の目的は、教師主導の「一斉学習」と学習者主体の「自由進度学習」を効果的に統合する方法を探求することである。具体的には、一斉指導の枠組み内で自由進度学習の

要素をどのように取り入れるかを提案し、それによって各学習者のニーズに応じた教育が実現可能かを検討する。このアプローチにより、伝統的な一斉指導を主体とする教育現場でも、新たな学習スタイルの導入が期待される。

本実践の対象は、関東地域の公立小学4年生の算数科「垂直・平行と四角形」の単元において自由進度学習の要素を取り入れた授業を展開し、その効果と課題について考察する。この実践を通じて、個別最適化学習が教育現場においてどのように機能するかの理解を深めることを目指す。

2. 実践のプロセス

2.1 「自由進度学習」とは

「自由進度学習」とは、学習者が自分のペースで学習を進め、自分の学び方を選択できる教育方法である。個別最適な学びが重視さ

れる中、多様な実践が自由進度学習として行われているが、その中には懐疑的な見解も存在する。本稿では、長年にわたり先進的な取組を行っている愛知県東浦町立緒川小学校（以下、緒川小学校）の「週間プログラム」（竹内、2019；東浦町立緒川小学校、2023）を基に、この学習形態を定義する。

自由進度学習は、令和3年の中央教育審議会の答申にある「指導の個別化」と「学習の個性化」の両立を目指すものである。「指導の個別化」とは、一人ひとりの学習者に合わせた効率的な指導を行うことで、全ての学習者が基礎知識と基本スキルを習得することを目指す。一方、学習の個性化では、学習者の興味や関心に基づいて、その特性を生かした学びを展開する。この方法により、学習者は自身の興味や関心に基づいて学習内容を選択し、学習方法も自ら調整することが望ましい（文部科学省、*ibid*）。

2.2 実践の背景と目的

(1) 背景

本稿は、令和3年度から木嶋が実施した自由進度学習を取り入れた算数科の授業実践について報告するものである。

本授業では、児童が自ら学習ペースを決定し、協力して学ぶか独学するかの学習方法を選択できる環境の整備を目指した。令和5年度には、授業者が算数科の主担当として3・4年生の全クラスでチーム・ティーチングを実施し、授業の質を向上させるとともに、先進的な学校の取り組みを導入した。さらに、本授業の対象である4年生は、1年生の時に木嶋が担任しているため、半数の児童とはすでに良好な関係を築いていた。この関係性は、授業実践に肯定的な影響を与える重要な要素となった。

(2) 目的

本実践は、木嶋が勤務している横浜市公立

小学校の校内授業研究会の一環として提案されたものであり、一斉学習と自由進度学習の統合による個別最適な学びの実現を目指している。同校では、「生活科」（1、2年生）および「総合的な学習の時間」（3～6年生）において、4年間にわたる研究を通じて、子ども中心の学びに対する校内全体の意識が高まっていた。しかしながら、自由進度学習に関する実践は、授業者個人の取り組みに留まり、校内で広く知られることは少なかった。そこで、令和5年度には2学年（3、4年生）の全クラスにわたる授業実践を通じて、学びの自律性を重視した再現性の高い授業を提案した。このアプローチは、一斉指導と自由進度学習を二項対立的に捉えるのではなく、両者の利点を組み合わせることで、より多くの教員に受け入れられる授業実践を目指すものである。本実践は、先進的な学校の取り組みを参考にしつつ、全単元にわたって児童が自律的に学ぶ機会を確保することに重点を置いている。これにより、持続可能で質の高い教育が提供できると考えている。

2.3 自由進度学習の導入プロセス

本節では、児童が自由進度学習に適応するまでのプロセスを詳細に確認する。自由進度学習はすぐに実施できるものではないため、初期段階では45分授業の中で徐々に自己選択や自己決定の機会を増やし、友達と協働する場を設ける必要がある。こうした段階的なアプローチによって、自由進度学習が成り立つための基盤が整えられる。

以下、算数科の自由進度学習を導入する際の5つの学習のステップを具体的に紹介する。

(1) ステップ1：自分で取り組む問題を決める

このステップは、児童が自己調整する能力を基礎から培う上で非常に重要である。たとえば、対象校が所在する市が採択しているT社の算数科の教科書においては、演習問題のページに青く塗られた部分が存在する。この部

分を活用して、「青だけコース」「全部コース」「巻末の発展問題を含むコース」など、児童が自身のレベルに合った内容を選ぶ授業展開が可能である。児童には、他人との比較ではなく、自身の理解と能力の向上に焦点を当てるべきだと繰り返し伝えることが必要である。

(2) ステップ2：自己評価（「丸付け」）ができるようになる

自己選択・自己決定の取り組みを進める中で、児童が自己評価（いわゆる「丸付け」）を行う能力を培うことは重要である。自己評価を行うことに抵抗感を持つ教員も少なくないが、養手（2021）は、児童が初期段階では甘く丸付けをする傾向があることを指摘し、教師がその誤りに気づかせることが重要だと述べている。児童は自己評価の過程で誤りを犯すことがあっても、教師の適切な指導や補

助教材を用いた練習を通じて、徐々に正確な評価ができるようになるとしている。

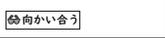
また、「答えを写すだけ」という問題については、児童が直面する課題への適切な対処方法を教え、「単に答えを出すことが目的ではない」という考え方を繰り返し伝えることが重要であり、そのプロセスを通じて児童の学びを深めていくことが求められる。

(3) ステップ3：学習計画表を活用して学ぶ
緒川小学校では、「学習のてびき」と称される学習計画表が使用されている（竹内、2019）。この計画表には、活動内容、標準時間数、学習の流れ、使用する教科書や教材などが詳細に記載されている。本実践では、この計画表を「進行表」として児童と共有し、単元全体の見通しを立て、どの時間にどの内容に取り組むべきかが一目で分かるように工

表1 進行表

見通しをもって学ぼう！算数シート『垂直・平行と四角形』				
4年 組 名前				
ステップ	学ぶこと(大切なポイント)	ここまでは！	チャレンジ	チェック
ブロックのかべを見ると、きれいに長方形が重なっているね！ルールはあるのかな…？ そういえば、低学年のときに色板をしきつめて遊んでみたことがあったような…？				
【ステージ① “垂直” と “平行”】				
①	垂直・平行について知ろう。 ①垂直	P.20△1	わくわく	
②	垂直をかいてみよう。②三角じょうぎ	P.21 2△2・3	プリント	
③	垂直・平行を見分けよう。 ③平行	算スキ⑧ P.22 1①～③ P.23△1・2	算スキ⑧ プリント ①	ミニテスト①
④	平行のとくちょうを知ろう。 ④なめの角度	P.23 2① P.24 3①△3	プリント ②	ミニテスト② P.131△Oオ
⑤	平行をかいてみよう。 ⑤合わせる	P.26 4 P.27△5・6	プリント ③	ミニテスト③ わくわく
⑥	方がん用紙を使ってかこう。 ⑥かたむき	算スキ⑨ P.28 5 △7	わくわく	
かくにんテスト！ ～せつ明プリントにチャレンジ～				
<ふりかえり> ◎ばっちり！まかせて！ ○とりあえずできた！ △ちょっとじしんがないなあ…				

表1 進行表

【ステージ② “平行四辺形”と“台形”と“ひし形”】			
⑦	平行四辺形・台形・ひし形について知ろう。 	P.29① P.30△1・2	わくわく
⑧	平行四辺形のとくちようを知ろう。 	P.31②① △3	わくわく
⑨	平行四辺形をかこう。 	算スキ⑩ P.32③①② P.33△4	算スキ⑩ プリント ① ミニテスト④ P.132△〇カ
⑩	ひし形をかこう。 	算スキ⑪ P.33④① P.34△5～7	算スキ⑪ プリント ② ミニテスト⑤ P.132△〇キ
⑪	対角線について知ろう。 	算スキ⑫ P.35①②② P.36③△1	わくわく
⑫	これまでのふくしゅうをしよう。	算スキ⑬ P.38△1～3、4書きこみ	わくわく
しあげテスト！ ～せつ明プリントにチャレンジ～			
○今回の学習で、知ったこと・わかったこと・できるように なったことは何ですか？(なんでも OK！ たくさん書こう！)			
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			

夫している（表1）。児童はこの進行表を参考にするこゝで、1単位時間内の学習内容を把握し、自ら学習を進めることが可能となっている。

(4) ステップ4：友だちと協働して学ぶ経験
自由進度学習という言葉を目にするこゝで、しばしば「一人での学び」が強調されがちである。しかし、友だちと協働して学ぶこゝで、その効果が一層発揮されるこゝがある。そこで本実践では、問題に取り組む際に「一人で学ぶ」「友だちと一緒に学ぶ」「先生と一緒に学ぶ」という選択肢を設け、困ったときにはすぐに友だちや先生に相談できる環境を整えている。
また、自分の考えを友だちに説明し、理解してもらえたらサインをもらおうという活動も繰り返し行う。このような活動を通じて、児童同士で考えを伝え合うこゝが自然と習慣化

されていく。

(5) ステップ5：端的な学習内容の伝達

本授業では、約15分間の「ショートレッスン」と称する一斉学習の時間を設けている。この短時間で、指示発問や例題の確認を全体で行い、その後の個別学習の基盤を整えるこゝを意識している。このようにして、残りの約30分を児童が自ら学ぶ時間に充てるこゝができるよう工夫している。

上記の5つのステップを意識するこゝで、1単位時間内において自由進度学習のスタイルで授業を進めるこゝが可能となる。さらに本実践では、このアプローチを発展させ、複数時間にわたる自由進度学習の授業実践にも取り組んでいる。

3. 授業の概要と準備

3.1 授業の概要

本節では、本授業の構成と具体的な目標について記載する。本授業は、令和5年度の4年生2クラスに行った算数科の「垂直、平行と四角形」の単元で、一斉指導と自由進度学習を組み合わせた取り組みである。上記の段階を経て、児童一人ひとりが自分のペースで学ぶ時間を確保することを目指している。

授業の流れを図1に示す。この授業では「一斉学習」、「個別化学習」、「協働学習」という3つの学習形態を組み合わせて単元を構成している。「一斉学習」は、前節で述べた通り、全体でのショートレッスン後に、児童が自分で練習問題に取り組む授業スタイルである。「個別化学習」は、複数時間内で自由

進度学習を行う形態を指し、児童はショートレッスンを受けた後、自分のペースで課題を進めていく。発展課題に素早く取り組む児童もいれば、着実に基礎を固めながら進む児童もあり、それぞれが自分に合った学び方を選択する。この学習を児童には「自分で進めるモード」として分かりやすく伝えている。毎時間確認プリントを準備し、教師が児童の理解度を適宜確認しながら指導を行うことで、一人一人に応じた指導が可能となる。「協働学習」は、児童が学んだ内容を友だちに説明し合う「チェックテスト」の時間である。この課題は、西川他（2018）を基に作成されたもので、自由進度学習の中で、児童がどの程度理解できているかを言語化する重要な役割を果たしている。

単元の進行イメージ図

本単元では、一斉学習の場面と、個別化学習の場面を組み合わせ、以下の様に学習を進めていく。

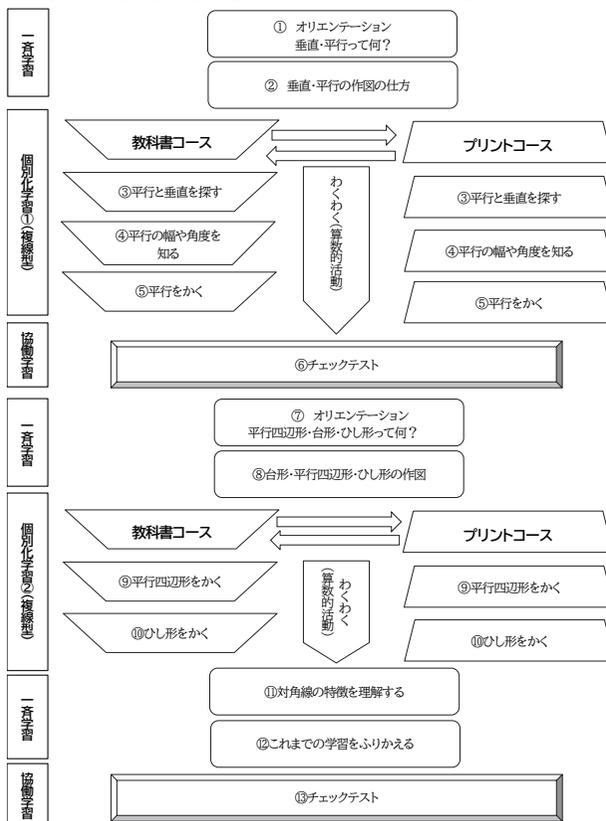


図1 授業の流れ

本授業の単元と評価計画は表2のとおりである。

表2 単元と評価計画

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の観点別評価規	直線の垂直や平行の関係を理解し、それらを活用して平行四辺形やひし形、台形の特徴について理解している。	辺の位置関係や構成要素に着目して、様々な四角形の性質を見いだして表現したり、様々な四角形と対角線の特徴を整理して考え、説明したりしている。	身の回りから直線の垂直や平行の関係、様々な四角形を見いだすことで学習内容を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり数学のよさに気づき学習したりしたことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

単元計画 (13時間扱い)

形態	時	主な学習活動	主な評価規準
一斉学習	1	2直線が交わってできる角について着目し、垂直の意味とその弁別について考える。	[知・技] 垂直の意味を理解し、弁別することができる。 【観察・ノート】
	2	垂直な直線のひき方を知る。	[知・技] 三角定規の直角部分を用いて、垂直な直線をひくことができる。 【観察・ノート】 [思判表] 垂直な直線のひき方について、三角定規の直角部分に着目して考え、説明している。 【観察・ノート】
個別化学習①	3	2直線の並び方に着目し、平行の意味とその弁別について考える。	[知・技] 平行の意味を理解し、弁別することができる。 【観察・ノート】
	4	平行な2直線に交わる直線に着目し、平行な直線の性質について考える。	[知・技] 平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることや、平行な直線の間の距離は一定であることを理解している。 【観察・ノート】 [態度] 身の回りから垂直や平行の関係にある直線を見いだしたことを振り返り、生活に生かそうとしている。 【観察・ノート】
	5	平行な直線のひき方を知る。	[思判表] 三角定規を用いて、平行な直線をひくことができる。 【観察・ノート】
協働学習	6	方眼を使い、直線の垂直や平行の関係を考える。	[知・技] 方眼を手がかりにした垂直や平行な直線の弁別の仕方を理解している。 【観察・ノート】
一斉学習	7	平行な辺の組数に着目し、台形と平行四辺形の意味を考える。	[知・技] 台形や平行四辺形の辺の位置関係を理解し、かくことができる。 【観察・ノート】
	8	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形の性質について考える。	[知・技] 平行四辺形の辺の位置関係や長さ、角の大きさについて理解している。 【観察・ノート】
個別化学習②	9	辺の位置関係や構成要素に着目し、平行四辺形のかき方について考える。	[知・技] 平行な2直線の作図やコンパスの性質を用いて、平行四辺形をかくことができる。 【観察・ノート】 [思・判・表] 平行四辺形の辺の位置関係や長さ、角の大きさに着目して、作図方法を考え、説明している。 【観察・ノート】
	10	辺の位置関係や構成要素に着目し、ひし形の意味、性質、かき方を考える。	[知・技] ひし形の特徴を理解し、半径の等しい2つの円を用いて、ひし形をかくことができる。 【観察・ノート】
一斉学習	11	対角線の意味、四角形の対角線に関する性質について考える。	[思・判・表] 様々な四角形の相互関係について、対角線に着目してとらえ、説明している。 【観察・ノート】
	12	学習内容の習熟・定着を図る。	[思判表] 学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 [態度] 学習内容を生活に生かそうとしている。 【観察・ノート】
協働学習	13	単元の学習をふりかえる。	[思判表] 学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 [態度] 学習内容を生活に生かそうとしている。 【観察・ノート】

3.2 授業の準備について

児童の思考の流れに適した資料の選定や、興味を引く学習課題の設定は重要であるが、再現性と持続可能な学習体系を確立するため、本授業では主に教科書に沿った問題や市販の問題プリントを活用している。市販教材を積極的に取り入れることで、授業準備の負担を軽減することを目的としている。

「教科書コース」では、教科書を参照しながら児童がノートを用いて学習できるように、ノート見本を作成し、常に参照できるようにしている。「プリントコース」では、算数が苦手な児童や、文字を書くことに苦手意識がある児童が学びやすいよう、市販のプリントを編集し、プリントを通じて教科書と同等の内容を学べるように工夫している。

本授業では、特に発展課題に重点を置き、「わくわく」と称した多様な活動を提供することに努めている。これらの「わくわく」活動については、以下で詳述する。

また、毎回の学習後には振り返りの際に特定のキーワードを提示し、そのキーワードを活用しながら学びの内容を整理する「算数メガネ」という視点を設定しており、児童の深い気づきを促すことを目指している。

4. 学習環境と活動

4.1 学ぶ場と手段の選択

学ぶ内容の決定に加え、学習を一人で進めるのか、友達と協力して行うのか、または教師と共に学ぶのかといった学習形態の選択肢も重要である。さらに、ノートやプリント、タブレット端末などのツールや実物資料を使用するなど、学習手段や教材の選択も含まれる。また、本授業では、学習空間として廊下のスペースを有効活用し、児童が多様な学習スタイルを選択できる環境を整えている。

4.2 算数的活動「わくわく」について

前述のとおり、本授業では、基本的な学習

を終えた後、学習内容に応じて児童が自ら選択できる創造的かつ発展的な学習活動「わくわく」を導入している。児童たちはこの活動に大きな興味を持ち、楽しんで取り組んでいる。活動のアイデアは、教科書に掲載された算数的活動、先進校の実践例、他社の教科書、さらには勤務先の算数教具室にある教材などからヒントを得ている。

学習が進むにつれ、児童から自発的に「〇〇がしたい」といった提案が出ることもあり、その意見を尊重し、面白いと判断されたアイデアは全体で共有され、新たな「わくわく」の活動として取り入れることがある。

本授業では、「わくわくの場」として8つの活動を設定している。各活動では、垂直や平行の関係など算数的な概念を、身の回りの環境から発見し、それを活用する内容としている。活動の進め方としては、まず全体で内容を簡潔に説明し、その後、各ブースに掲示物を設置し、児童が自主的に取り組めるよう工夫している。これにより、児童は日常生活の中で数学的な視点を養う機会を得ることができている。

(1) 身の回りにある垂直・平行さがし

この活動では、校内で垂直や平行の関係にあるものを写真に撮り、まとめる活動である。この活動を通じて、日常に存在する垂直や平行の関係を目を向け、それについて考えるきっかけを提供している。

(2) 色板のしきつめ

この活動は、色板を敷き詰める活動を通じて、垂直や平行の关系到気づくことを目的としている。色板が綺麗に並ぶことは、平行の关系到成立していることを示している。児童は様々な形を作りながら、これらの幾何学的な关系到に気づくことができるようになっていく(写真1)。



写真1 色板の敷き詰め

(3) 「カプラ」で垂直・平行づくり

「カプラ」とは、積み木のような薄いピースを積んで遊ぶもので、幼保小連携事業の一環として活用され、1年生の教室にも多く置かれていることが多い。本授業でも学校のカプラを活用した。子どもたちは夢中になって積み上げていくが、立体的な構造物を作ること、建物に平行の関係が多く含まれており、そのことに気づくことができる（写真2）。

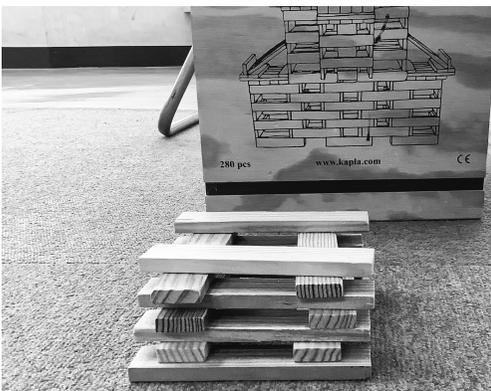


写真2 カプラを用いた垂直・平行づくり

(4) ドット図を用いた図形づくり

これはジオボードと輪ゴムを用いて様々な図形を作る活動である。色板の敷き詰めと似ているが、輪ゴムを使用することで外周に焦点を当てている。この活動は、今後の平行四辺形の作図学習につながるよう設計されている（写真3）。

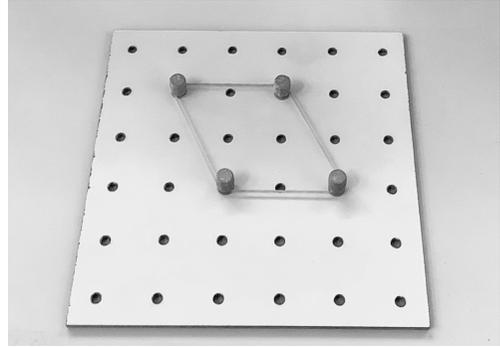


写真3 ドット図を用いた図形づくり

(5) まちの地図で垂直・平行さがし

他社の教科書を参考にして、地図を用いた導入を行った。具体的には、児童がまち探検で使用する学区の簡易地図から、平行や垂直の関係を見つけ出す活動である。たとえば京都のように区画が整った地域を取り上げることも検討したが、今回は身近な地域を対象とした。必ずしも平行や垂直ばかりではないが、身近な環境を異なる視点で見ること、垂直や平行と捉えることができるように設定している。

(6) かぞえ棒ならべ

この活動も、色板の敷き詰めやドット図を使った活動に似ているが、より外周を意識しつつ、自由度が高い点が特徴である。また、立体的な構造を作ることも可能であり（写真4）、より自由な発想を通して、平行や垂直の視点を見出すことができるように設計している。



写真4 かぞえ棒ならべ

(7) クイズづくり

クイズづくりは、これまでの単元でも頻繁に取り入れている活動である。学習支援アプリを使用し、これまでに扱った内容を基にクイズを作成し、互いに解き合うことができるようにしている。問題を作成する活動は、児童が自らの理解を確認する機会となり、教科書やドリルを参考にして問題を作成する様子も見られる。この活動は効果的な復習手段として機能している。

(8) 作図のコツ動画づくり

動画作成の活動も繰り返し実施している。児童たちは動画に慣れ親しんでおり、動画制作にも高い関心を持って積極的に取り組む姿が見られる。作図の過程をタブレット端末で撮影し、必要に応じて文字を加えて編集することで、解説動画を作成している。本授業では、作図動画だけでなく、問題の解き方を解説する動画の制作も許可しており、児童が自分の作りたい動画を自由に選択できるように工夫している。

以上、本授業において設定した8つの活動について説明した。他の授業においては、これらすべての活動に取り組むことを必須としているわけではなく、児童の様子を見ながら柔軟に対応している。必要に応じて他の活動を提案し、児童が様々な学びに取り組めるよう促している。

4.3 授業進行における留意点

授業を進める中で、予定の変更が生じることは当然のことである。自由進度学習とはいえ、児童の様子を見ながら、理解が不十分であったり、誤解が見られたりする場合には、全体で時間を取って共有することもある。

自由進度学習では、評価がしばしば話題に上がるが、児童が自主的に課題に取り組んでいるからこそ、その間に一人ひとりの学びの

様子を細かく観察し、個別に応じた指導が可能である。また、単元の中で教師が評価（丸付け）を行う場面を何度か設けることで、児童の理解度を確認し、必要に応じた指導を行うことができる。さらに、教師が毎回の授業後に児童のノートを回収し、コメントを入れたり、理解度を把握したりすることで、個別の学びをより深く捉えることができる。そのため、一斉指導を行う場合よりも、児童一人ひとりの様子を的確に把握でき、教師が評価についても自信を持って実施できる。

5. 本実践の成果と課題及び今後の展望

本実践では、一斉学習と自由進度学習を組み合わせた授業形態を試行し、児童一人ひとりの学びを深めるためのモデルを提案した。単元終了時に実施したペーパーテストの結果からも、児童の理解度は十分であり、実態に即した効果が確認された。特に「わくわく」活動を通じて、児童が主体的に学びを選択する姿が見られた点が、本実践の大きな成果としてあげられる。

授業では、児童が自己選択・自己決定を尊重した学びに対して積極的に取り組む姿が多く観察された。学年の後半になると、児童自身が「○○のような活動をやってみたい」と発展的な学習を提案する場面も増え、児童の主体的な学びへの意欲が確認された。また、学年末の振り返りでは「算数を楽しもうとする心が成長した」「自分で計画を立てて学習したことで算数が楽しくなった」といった児童からの肯定的な感想が多数寄せられた。これらの意見は、児童が主体的な学びを通じて自信や楽しさを感じていることを示している。

一方、本実践を通じて明らかになった課題として、算数科における自由進度学習が全ての単元に適しているわけではない点があげられる。具体的には、算数科の各領域において、自由進度学習の適用可能性に差異が見受けられる。たとえば第4学年における「A領域 数

と計算」では、計算問題を系統的に解くことが個別学習に適しているものの、発展的な学びには学習環境の工夫が求められる。一方、「B領域 図形」は活動的な内容が多く、自由進度学習を導入しやすい領域である。「C領域 変化と関係」については難しい概念を含むため、全体での共通理解が重要となるだろう。また、「D領域 データの活用」は自由進度学習でも実施可能だが、他教科との関連性を持たせることで、さらに効果的な学習が期待できる。

緒川小学校の実践においても、各学期に1回程度の自由進度学習が行われており、単元ごとの適用についての検討が必要とされている。緒川小学校では「週プロとして行う活動は、学習作業が多く、自己チェックが容易で、一人学びに適した内容が設定される」（東浦町立緒川小学校、2023）とされており、この観点からも、算数科の各単元にはそれぞれ適した学習方法があると考えられる。

今後は、自由進度学習の発展を図り、複数の教科を同時に学習する機会を提供することが求められる。このアプローチにより、児童一人ひとりの学びのスタイルに合った授業形態がさらに追求され、教育現場全体での実践がより充実することが期待される。

6. おわりに

本稿では、算数科における自由進度学習の取り組みに焦点を当てたが、他教科でも同様の実践を試みている。今後は、国語や理科、社会といった複数教科にわたる学習効果を検討し、より包括的な学びの成果を明らかにする予定である。また、本実践の効果に関しては、アンケートなどのデータを取得していないため、今後は定量的なデータを収集し、児童の学習成果や意識の変化をより精緻に検証することが求められる。この分析を通じて、より信頼性の高い実践報告を目指していきたい。

本実践は、先進的な取り組みを参考にしな

がら試行錯誤を重ねて進めてきたものである。繰り返し実施する中で、課題は依然として残るものの、徐々に独自の方法が確立されつつある。自由進度学習の取り組みは現在も発展途上であり、今後も改善と工夫を続けながら、児童が楽しく主体的に学び続けられる授業の実現を目指す必要がある。

最後に、本実践報告が、自由進度学習に興味を持つ教育者や、新たに導入を検討している方々の一助となれば幸いである。

引用文献

- ・愛知県知多郡東浦町立緒川小学校、久野弘幸（監修）（2013）『改訂 個性化教育30年』中日文化
- ・愛知県知多郡東浦町緒川小学校（著）（2023）『自ら学ぶ子 個性化教育緒川小学校の教育』
- ・竹内淑子（著）小山儀秋（監修）（2019）『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』
- ・難波駿（2023）『超具体！自由進度学習はじめての1歩』東洋館出版社
- ・西川純、木村薫（編著）（2018）『小学校算数「学び合い」を成功させる課題プリント集4年生』東洋館出版社
- ・蓑手章吾（2021）『子どもが自ら学びだす！自由進度学習のはじめかた』学陽書房
- ・文部科学省中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm（2024.9.1閲覧）